

群 教 七	G01 - 03
	平29.265集
	国語 - 中

文章の構成や展開、表現の仕方について 自分の考えを持つことができる生徒の育成

— 読みの視点の提示と学習活動の工夫を通して —

特別研修員 新井 晶子

I 研究テーマ設定の理由

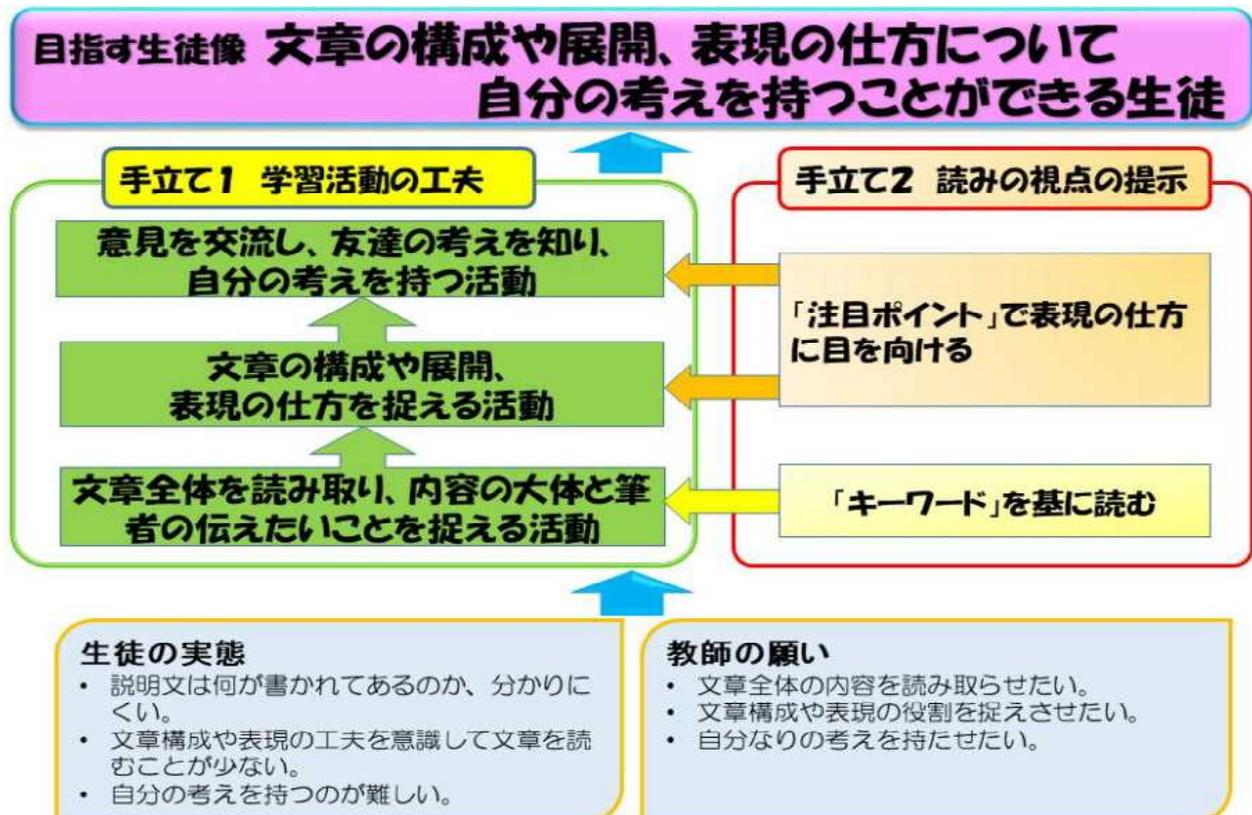
平成28年度全国学力・学習状況調査の教科に関する調査の結果では「文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめることに課題がある」とされている。また、群馬県教育委員会の平成29年度学校教育の指針（解説）では、中学校国語科の課題として「文章の構成を捉えること」と「互いの発言を検討して自分の考えを広げること」が挙げられている。

所属校の生徒は、課題への取組や友達との意見交流への意欲について、個人差が大きい。読んだり書いたりする力も個人差が目立ち、特に自分の考えを持つ段階で、差が広がる傾向がある。自分の考えの形成過程でつまずきがあるように見えるが、考えを持つ前提となる、書かれたことを解釈する過程での支援が必要であると思われる。まずは教材を確実に共通理解する場を単元の初期に位置づけ、文章の内容をどのように読み手に伝えようとしているのか文章の構成や展開、表現の仕方に目を向けさせ、友達と意見を交流する場を設定すれば、自分の考えを形成する過程において有効に働くのではないかと考えた。

そこで、本研究では、確かな読みを全体で共有するための支援として読みの視点を提示したり、学習活動を工夫したりする。文章の構成や展開、表現の仕方を共通理解し、意見を交流することで、それについて自分の考えを持つことができる生徒の育成を目指す。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

文章表現について自分の考えを持つためには、文章の内容や要旨を正しく捉えることが不可欠である。しかし、所属校の生徒は、文章の内容の大体を読み取るのに時間がかかり、要旨の捉えに自信を持っていない生徒が多い。そこで、自分の力で文章を読み取るための手立てとして、まずは文章の内容や要旨を正しく捉えるための読みの視点を示す必要があると考えた。さらに、文章表現に目を向けるための読みの視点を提示することで、文章構成や表現の工夫について考えさせたい。文章の内容を正確に読み取り、筆者による文章表現の仕方や意図が捉えられれば、それらについて自分の考えを持つことができるのではないかと、併せて、学習活動の中に生徒が交流する場面を設定することにより、友達の見解を参考にしたりヒントにしたりでき、自分の考えを持つことが苦手な生徒への支援になるのではないかと考えた。

以上のようなことから、次の手立てを設定した。

手立て1 学習活動の工夫

自分の考えを持つまでの過程を次の3段階に設定し、段階的に読み進められるようにする。

1. 文章全体を読み取り、内容の大体と筆者の伝えたいことを捉える活動(個人)
2. 文章の構成や展開、表現の仕方を捉える活動(個人)
3. 意見を交流し、友達のことを知り、自分の考えを持つ活動(グループ)

手立て2 読みの視点の提示

手立て1の3段階の活動の中で「キーワード」、「注目ポイント」を読みの視点として提示する。「キーワード」は、題名に関わる言葉や繰り返し出てくる言葉とする。「注目ポイント」とは、文章の構成や展開、表現の仕方に目を向けるための視点をまとめたものである。

学習活動の第1段階では、生徒が文章の内容の大体を理解し、この文章で筆者が伝えようとしていることを読み取ることがめあてとして活動する。学習活動の第2段階では、筆者が読み手に内容を理解してもらうために、どのような文章の構成や展開、表現の仕方をしているのかを捉えさせる。学習活動の第3段階では、第2段階で見つけた表現の仕方についてグループで考えを交流する活動を設定し、自分の考えを確かなものにしたたり、新たに考えを広げたりすることができるようにする。

これらの学習活動ごとに、手立て2である「読みの視点の提示」を行う。第1段階の活動では「キーワード」を読みの視点として提示する。それを基にして文章を読み進めることで、内容の大体を読み取ることができるようになる。第2段階では「注目ポイント」を読みの視点として提示し、文章の構成や展開、表現の仕方に着目させる。見つけた表現の仕方は、グループで意見を交流したり、それについての自分の考えを話したりして共有する。第3段階でも「注目ポイント」で示した視点と意見交流の内容を参考にさせながら、自分の意見をまとめさせる。

III 研究のまとめ

1 成果

- 題名に関わる言葉や繰り返し出てくる言葉などが「キーワード」であることを知り、それを読みの視点として文章を読み進めることによって、内容の大体を読み取ることができるようになった。
- 「注目ポイント」によって文章の構成や展開、表現の仕方に着目することにより、文章内容と表現方法には密接な関係があることに気づき、筆者の表現の仕方や工夫について自分の考えを持つことができるようになった。

2 課題

- 「キーワード」については理解できたので、教材文以外の文章に役立てられるように、読み取る経験を積み重ねる場の設定が必要である。
- 一連の学習活動で身に付けた視点を基に、さらに筆者の意図やその効果について考えを深められるような支援が必要である。

実践例

- 1 単元名 説明の工夫を見つけよう
 教材名 「水の山 富士山」教育出版（第2学年・2学期）

2 本単元について

本教材は、科学的な事実を図表や写真を提示しながら述べていく説明的な文章である。科学的な事実を客観的に述べるにはどのような言葉でどのように説明するか、また、読み手に分かりやすく伝えるために資料をどのように使用するかなど、事実を説明する記述方法の典型として生徒が学ぶべきことが多くある。また、構成としては、冒頭で文章全体に関わる疑問を提示して、それに答える形式で説明が進められていく。その際、冒頭の疑問は、大段落ごとに細分化された課題として提示され、読み手が無理なく理解できるよう工夫されている。関心や課題意識を呼び起こしながら説明を進める構成から、生徒は説得力のある論述の進め方を学ぶことができると思われる。

本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	取り上げている事例の提示の仕方と、問いと答えの関係などを確かめながら読み、筆者の論の展開の仕方について自分の考えをまとめることができる。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	筆者の考えや説明的な文章の表現について関心を持ち、自分の考えを述べようとしている。
	読む能力	○筆者の考えや文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 ○事例の提示の仕方を的確に把握し、筆者の論の組み立てを押さえて、筆者が解明した「富士山の原理」を捉えている。
	言語についての知識・理解・技能	文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えている。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1時	学習の見通しを立て、全文を通読して内容の大体を捉え、形式段落ごとに何の話題であるかをキーワードを使ってワークシートにまとめる。
課題 追究	第2時	文章全体を「序論・本論・結論」に分けるとともに、本論の部分を事例ごとの意味段落に分け、要旨を捉える。
	第3時	ワークシートに示された読みの視点を活用して、本文の文章の構成や展開、表現の仕方について読み取り、意見交流を行う。
まとめ	第4時	文章の構成や展開、表現の仕方について、意見交流で出た考えを参考にしながら自分の考えをまとめる。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全4時間計画の第3時に当たる。前時までには、形式段落ごとの話題をキーワードを使ってワークシートにまとめ、文章全体を「序論・本論・結論」に分けて本論を事例ごとの意味段落に分ける学習を行った。本時は、筆者の表現の仕方に目を向けて教材文を読み取り、グループで意見交流を行った。

本時は、手立て1として示した三つの学習活動の第2段階と第3段階に当たる。読みの視点としては「注目ポイント」を活用させた。具体的な手立ては以下のとおりである。

手立て1

内容の大体と筆者の伝えたいことを捉える段階、文章の構成や展開、表現の仕方を捉える段階、自分の考えを持つ段階を生徒自身が意識して活動できるように計画を立てた。

手立て2

「注目ポイント」を提示し、文章構成や表現の仕方に目を向け、筆者の表現の工夫を見付ける視点を示した。板書して提示したり、ワークシートに明記したりすることで、生徒の自主的な活用を促した。（注目ポイント）

- ・接続詞の使い方 ・図や写真、絵の使い方 ・文章の始まり（書き出し） ・本論の展開の仕方
- ・事例の順序 ・「問い」と「答え」

4 授業の実際

(1) 文章全体を読み取り、内容の大体と筆者の伝えたいことを捉える（前時）

「キーワード」を基にして、形式段落ごとに文章の要約を行い、ワークシートにまとめた。このワークシートを基に文章全体を「序論・本論・結論」に分け、まずは、筆者が最も伝えたいことを確認した。その後「筆者は伝えたいことを理解させるためにどのような表現の工夫をしているのか見付けてみよう」という課題で学習の見通しを持たせた。文章全体の構成を全体で確認したり捉えたりできるように文章構成表を掲示した（図1）。



図1 文章構成表の模造紙

(2) 文章の構成や展開、表現の仕方を捉える（本時）

「注目ポイント」を使って、文章構成や表現の仕方に目を向け、筆者の表現の工夫を見付ける活動を行った。ワークシートに「注目ポイント」を明記し、生徒が活用できるようにした（図2）。自力で見付け出すことができなかつた場合にヒントとして活用すれば良いことを説明した。

「注目ポイント」は、板書だけでなく、ワークシートにも記載し、手元でも確認できるようにした。「注目ポイント」には、表現の仕方についてどのように目を付けるか、具体的な見付け方も明記した。

見つけた表現の仕方から筆者の表現の工夫を捉えて書き込み、その後のグループでの意見交流に生かせるようにした。

「注目ポイント」を参考にして教材文を読み、自分で捉えた工夫について具体的に書き表している。

グループごとに意見交流を行った後、文章の構成や展開、表現の仕方について思ったことや考えたことを書き込んでいく（自分の考えの表出）。

図2 ワークシートの一部と生徒の書き込み

(3) 意見を交流し、友達の考えを知り、自分の考えを持つ

「注目ポイント」を基に、それぞれが見付けた表現の仕方についてグループで意見交流を行った(図3)。生徒の話合いでは、「図や表を使うことで難しい文章も理解しやすくなる」

「最初に大きな話題を提示してから、その後、細かな内容に入っているからどんどん引き込まれていく」「いきなり水の話に入っていない」「接続詞を使うことで、文の切り替えが分かりやすい」「『問い』を投げかけることで読み手の思考を広げる」など、教材から読み取った具体的な例が共有されていた。意見を交流することで、筆者がなぜこのような表現の仕方をしたのか、筆者の意図した表現の工夫として考えられた生徒もいた。意見交流で出た考えを参考にし、次時で自分の考えをまとめた。



図3 グループでの意見交流の様子

5 考察

表現の仕方に目を向けて文章を読むという経験が少なかった生徒が、本実践により文章読解の新たな視点を得ることができたのではないかと思われる。物語的な文章では情景描写や展開の面白さなど表現の特徴に目を向けやすいが、説明的な文章は単調に説明を書いているだけのように捉えがちである。しかし実際は、読み手が読みやすいように説明の順序が考えられていたり、分かりやすいように図表と文が関わっていたりする。そのほかにも接続詞の使われ方、「問い」や「答え」の役割など、内容理解だけを中心にして読んだ場合に見過ごされやすいことに目を向けて読み取ることができたことは、本実践の大きな成果といえる。生徒は、「注目ポイント」を手掛かりに文章の構成や展開、表現の仕方について考えながら文章を読むことができた。

しかし、筆者がどのような意図でこのような文章の構成をしたのか、あるいは、なぜこのような本論の展開をしたのかという「筆者の意図」に目を向けて考えるまでには至らない面があった。そのため、文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えを持つという段階でも、工夫に気付いたということにとどまり、そのよさや効果にまで自分なりの評価を加えて考えを書く生徒はあまり見られなかった。今後、分析的に読むという力にまで高めるには、「なぜ、筆者がそのような文章の構成や表現の仕方をしたのか」「読み手に分かりやすい、他の表現の仕方はないか」など、書き手の立場に立って考える意見交流も取り入れるとよいのではないかと考える。そして、文章の構成や展開、表現の仕方について各学年でどのような力を身に付け、積み上げていかなければならないのか系統性を意識し、文章の構成や表現に目を向けた読み方についての分析的な学習を意図的に重ね、工夫する必要がある。

また、「注目ポイント」にとらわれ、全員に一律な支援を行う形になっていた部分もある。ヒントは全員に必要なものではなく、自力解決の難しい生徒にのみ提示したり、必要に応じてヒントを変えたりするなど、効果的な示し方を考える必要がある。誰にどのタイミングでどのような読みの手掛かりが必要かを吟味した上で、学習の支えとなるようなより良い支援を考えなければならないと考える。

単元全体を通して、「文章全体を読み取り、内容の大体と筆者の伝えたいことを捉える活動」「文章の構成や展開、表現の仕方を捉える活動」「意見を交流し、友達の考えを知り、自分の考えを持つ活動」という学習活動を設定することで、生徒に見通しを持たせながら学習を進めることができた。スモールステップで一步步確実に学習を重ねていくことが「自分の考えを持つ」ために必要であったと言える。この学習活動を繰り返し行うことで、どうすれば説明的な文章を正確に読むことができるかということを生徒が意識したり、表現の仕方に目を向けて文章を読み進める力を付けていけたりすると考える。文章全体の読み取りに時間を費やしてしまうので、効率よく学習を進めるための支援の方法や、ポイントを絞った学習活動を工夫する必要がある。